

書 燈

平成 28 年度こどもの読書週間行事

村上しいこ氏講演会

「作品を通して伝えたい思い

～いつも側には愛猫と本」



筆は何本也や

笹 井 徹

中央図書館の館長として着任して三ヶ月あまりが過ぎました。仕事としての図書館勤務というのは勿論初めてで、当初は全くイメージが湧かなかったのですが、大倉山公園という緑と沢山の本に囲まれた夢のような？職場環境の中にいます。

さて、前職の文化交流部という所で常に意識していたことは、なぜ行政サービスに文化が必要なのか？という問いかけでした。そして明治時代の斎藤緑雨という評論家の「按ずるに筆は一本也、箸は二本也。衆寡敵せずと知るべし」という言葉です。「ギョエテとは俺のことかとゲーテ言い」という戯歌で知られる緑雨ですが[実は緑雨が述べたのかどうか出典不明]、私は「筆は一本、箸は二本」の意味を「作家・芸術家は1本の筆しかないから、2本の箸（産業・経済活動）には敵わず、景気が悪いときは“文化”は大人しくしておけ」とは捉えず逆に、筆のない（＝文化の香りや価値がない）産業や商品は全く面白みがなく、長い目で見れば受け入れられないものだと嘯いていました。まあ妄想ですが、価値観の多様化や社会の成熟化の中であながち間違いではないと。

では、図書館という仕事はどうでしょうか？これは根本的にもっと深いような気がします。大げさに言うと本・図書館は筆や箸が何本あるかという衆寡ではなく、その元になる人の生活や文化、産業含めた社会活動のアーカイブとその情報を提供するものだ。そういった根本のサービスを行う仕事だと考えると、

それはとても根幹的で崇高なものです。誇大妄想ですが。

我々は図書館で働く地方公務員、あるいはそれに準ずる立場で仕事をしています。「価値観が多様化した成熟社会で崇高なサービスを提供する」というと素晴らしいですが、現実はそうではありません。市民の要請や予算の縛りの中で、図書館としての基礎的なサービスを提供することと、行政施設として何を求められているかということの日々考えなければいけないからです。具体的には「教育」としては「教育日本一のまち神戸」という目標、「神戸市」としては「若者から選ばれるまち」になるということなのでしょう。教育が日本であれば勿論、親世代含めた若者から選ばれるでしょうから、チーム教育の一員である図書館はその一翼を担っていく必要があります。また当然「学校教育」だけではなく、「社会教育」の重要な役割を担っています。

そして職員として何を意識していくかですが、私的にはこう考えています。ともすれば息苦しくも感じられる社会の中で、都市としての魅力を発信し、人を惹きつけるには、図書館の中に籠り、その中でサービス提供に満足してはいけけないのではないかと。新しいサービスの提案などを絶えず行うことが大切であると。図書館というものは、何か人を引き付ける「新しい価値」が隠れていると、そしてそれを引き出していく必要があると。

（中央図書館長）

年齢別の瞬間実貸出人数の分析

堀口 尚之

年齢別の利用分析は、図書館経営的に以前から興味が持たれている視点である。今回、本市の図書館利用統計を用いて年齢別利用の簡易な分析を行ったので報告する。

1. 瞬間実貸出者数

事業概要掲載の利用統計数値は延べ数を基本としている。このため、例えば、総貸出冊数を年齢別に集計すると「40歳10名1回ずつ」と「40歳1名10回」とを同じとみなすことになり、実態と比べてずれが大きくなる恐れがある。したがって、年齢別の利用統計は実数を基本とするほうがよい。今回は、実貸出者数を用いた。これは、一般には一定の期間内に1回以上の貸出を行った利用者数を言うことが多い。本市の場合、利用券有効期限終了後の更新時に新規番号を振り直しているため、1年間の範囲で実貸出者数を算出すると、更新分が余分にカウントされる。年間でおおよそ1万人分と見積もられる。

そこで、〈現在資料を借りている人の年齢別人数〉を用いることにした。これであれば更新者のダブルカウントは無くなり、実態に近くなるだろう。以下、「瞬間実貸出者数」と便宜的に表記する。なお、瞬間と言っているが、〈ある特定の日の貸出状況を意味しているのではない〉ことに留意していただきたい。

2. 瞬間実貸出者数と住民人口年齢別分布の比較

住民人口が多い区に設置された図書館（例：西図書館）や、駅が最寄りの図書館（例：三宮図書館）で延べ貸出人数が多いことは経験的事実である。この傾向が年齢別の利用でも現れるかどうかを調べた。

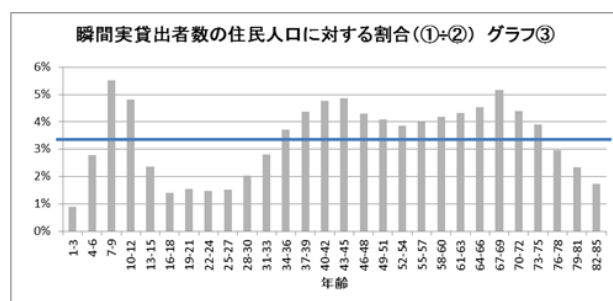
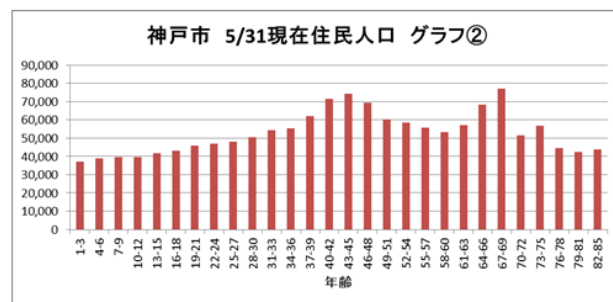
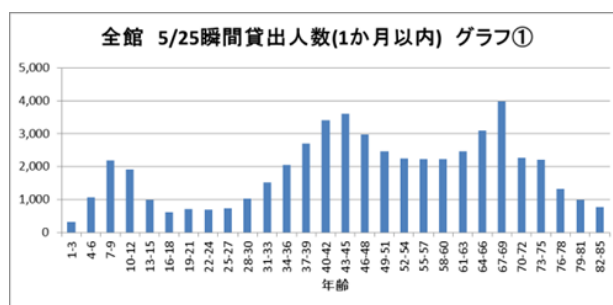
2016年5月25日時点で貸出ファイルから抽出した。貸出日は4月25日以降とし、複数館で借りている場合でも1人とカウントした。年齢は抽出時点での満年齢ではなくて12月31日時点の年齢である。貸出冊数が1冊以上で神戸市内在住者に限定している。1～85歳を3歳区切りで集計しグラフ化した。

グラフ①（総人数 52,815人）

住民人口は2016年5月31日現在の「住民基本台帳（日本人・外国人）町丁目別・年齢別人口」より（出典：神戸市ホームページ）。

グラフ②（総人口 1,487,841人）

グラフ①と②を比較すると、7～9歳と10～12歳は瞬間実貸出者数①の山のほうが高くなっている。小学生は住民人口に比して図書館を利用していること



がわかる。中学生、高校生時代（13歳を越える）の山が低くなっている。37歳以降は、43～45歳と67～69歳を中心とする山の形が似ている。

3. どの年齢層の利用が多いか（人口補正後）

瞬間実貸出者数の住民人口に対する割合（グラフ①÷グラフ②）を算出してみた。グラフ③

人口で割っているので住民人口要因を取り除いた結果とも言える。太い横線は、平均値 3.4%ラインで、これを基準に見ると7～12歳の小学生期の利用が中高年の利用を上回っていることがわかる。また、13～27歳の中学・高校・大学生の利用は人口を考慮しても少ないことがわかる。

4. 世代による分析は今後の課題

年齢別の利用統計の分析で期待されているのは、人生の中でどの年齢になれば図書館を利用するのだろうか。ライフ・イベントによってどのように利用が変化するかである。その答えを出すには、瞬間実貸出者数の経年変化を、世代という視点で分析する必要がある。年齢別の瞬間実貸出者数は、その時でないと算出できないので、過去のデータは存在していない。より詳細な分析は、今後、データを集めてからになる。



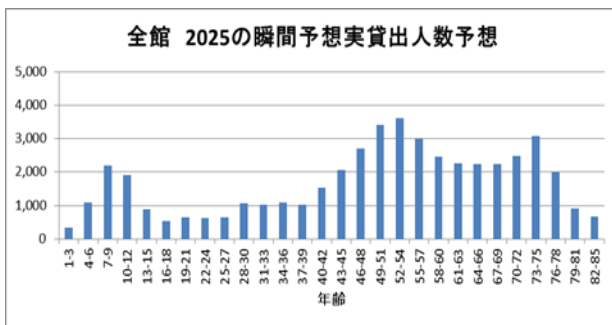
同時に、電算的に集約できる統計データのみに頼るのではなく、知りたい内容に合わせたアンケート調査も並行して行う必要があろう。電算的に集計できる統計データ分析には限界があつて、アンケート調査結果を加味して、抽出条件などを丁寧に確認しないと誤った判断につながってしまう。

5. 9年後の瞬間実貸出者のグラフ

今回の瞬間実貸出者数の現状グラフ①を右ヘスライドさせることで、未来の予想ができるだろう。

小学校期の山は、学校と図書館の連携などの成果の結果で毎年繰り返されるだろう。残り2つの山の年齢は束縛のない自由な読書の結果であり、図書館を取り巻く環境、施策に変化が無いとすれば、現在使っている人は将来も引き続き使い続け、右へ移動するだろう。ただ、80歳を越えると来館の機会は減るだろうから、現状の5割と見積もり、年齢が進むに応じて3割まで減るとした。現在の中学・高校・大学の世代は現状程度、30歳代は現状より低めとした。

以上の前提から9年後のグラフを書いてみた。予想総人数は約48,000人で現状の9割程度となる。18年後には3つめの山は消滅し、さらに総数は減るだろう。現在使っている人がそのまま使い続けた結果、利用者総数は減るという未来になるのではないだろうか。



6. 最後に

今、本市の図書館は、新しい利用者を獲得して、にぎわいのある場所に生まれ変わる必要がある。それには、作品の創造者である著者や流通の担い手である出版社・書店とも連携し、「清潔な読書環境」「読書に期待をもたらせるような建築デザイン」「行きやすい立地条件」「集まりやすい雰囲気」「借りたくなる蔵書構成、借りやすく、返ししやすい仕組み」などを実現する経営を行うことが必要だ。社会政策事業（コミュニティ創生）に関わることで地域社会に生き残らなければならないだろう。

(企画情報係)

〈新規採用職員エッセイ〉

念願の司書として

小嶋 沙也加

神戸という初めての場所で働き始めて3ヶ月が経ちました。神戸市立中央図書館の調査相談係に配属され、日々カウンターや電話でのレファレンスに対応しています。図書館のずらりと本が並んでいる様子が好きで、開館前や出勤前によく書架を見て歩いています。

私は中学生のときに地元福井県の図書館で職場体験をし、司書という職業を知りました。小さな図書館でしたが、本に囲まれて働ける仕事ということで、本好きの私はとても憧れたことを覚えています。それから司書を目指し、大学で資格を取得しましたが、司書は狭き門といわれ、正規採用が非常に少ないことを知りました。それでも図書館で働くことを諦めきれず、大学卒業後は他都市の図書館で非正規職員として5年間働きました。4月から念願の正規職員として働き始め、多くの業務に関わることができる喜びを感じるとともに、責任の重さも実感しています。

調査相談のカウンターには、本をお探しの方、調べ物をされている方など、さまざまな方が来られます。相談の内容も多岐にわたり、初めて耳にするような単語や人名地名、専門用語が出てくることもあり、戸惑うことも多々あります。そんな中、相談の内容から次々と関連資料を探し出す先輩方を見て、毎日多くのことを学んでいます。私はまだフォローをしていただくことも多く、自分のレファレンスのスキルや知識不足を痛感しています。直接市民の方と接する機会も多いのですが、拙いレファレンスながら、「ありがとう」と言っていたときは本当に嬉しく、とても励みになりました。

私にとっての図書館は、本で囲まれた憧れの場所から、自らの働く場所へと変わりました。図書館は、市民の方々の情報拠点であり、さまざまな課題解決の援助も行っています。そして、司書は豊富な知識をもって、人と本をつなぐ仕事だと教わりました。私はまだまだ知識も足りず、わからないことばかりですが、先輩方に教わり、経験を積み、念願の司書として、精一杯日々の業務に取り組みたいです。

(調査相談係)



ー市民サービス係への派遣会社からの

社員派遣についてー

4月1日から市民サービス係の窓口業務並びにその他補助業務について、派遣会社の社員により行われることとなった。

派遣会社はポートスタッフ。日曜日は6名、それ以外の日は8名が派遣されている。

(市民サービス係長・村井)

ー予約業務の見直しについてー

予約業務の見直しについて、平成27年9月からワーキンググループを立ち上げ都合13回に渡って検討を重ねてきた。

その結果、一人の予約受け付け上限を20冊までとすることが決定された。

3月17日から予約カードの受け付け方法の変更と上限設定のPRを開始し、6月21日から全館で上限設定が実施された。

(市民サービス係長・村井)

ー『食から学ぶ震災の記録』の寄贈ー

神戸大使で料理研究家の白井操氏から『食から学ぶ震災の記録』を神戸市に1,000冊寄贈いただいた。

市内図書館での所蔵のほか、市立学校園、区役所、地域福祉センター等へ配布した。また、著者から許可をいただき、図書館ホームページで本書のPDFデータを公開している。

(資料係長・福永)

ー「本の虫通帳」と「ほんのむしシート」の

発行についてー

子供たちが読んだ本を記帳する手作りの冊子とシート、「本の虫通帳」と「ほんのむしシート」の配布を4月5日から開始した。

ホームページ配信と窓口配布を行っている。中央図書館窓口では6月末までに両方で60部配布した。大人の方にも好評である。

(市民サービス係・波多野)

ーデットマール・クラマーと

日独サッカー交流展@神戸ー

“日本サッカーの父”と言われて、昨年亡くなった故デットマール・クラマー氏を偲んで日本サッカー協会との共催で行った。(3/29～5/1)

この展示は、故人と深い親交があった賀川浩氏の意向を受けたもので、日本サッカーミュージアムで開催した同名のイベントで展示された記念品や日独サッカー交流関連資料等の展示品を借用した。また、開催にあたってはNPO法人の神戸日独協会、サロン2002、神戸アスリートタウンクラブの協力を得た。

4月9日には「日独サッカー交流の始まり」と題した賀川氏の講演会で、広島の実業団にいたドイツ人俘虜から日本の学生がサッカーを教わった歴史や、ベルリン五輪に初出場した日本代表がドイツに学び優勝候補のスウェーデンに逆転勝利した“ベルリンの奇跡”などで日独のサッカー交流を語った。

(総務課担当係長・松永)

ー地域館トピックスー

【多目的室を自習スペースに】

新長田図書館では、多目的室を自習席として開放を始めた。8席という限られた席数ではあるが、イベントのない日曜日は学生優先で利用を受け付けている。自習利用のできる日は館内に掲示し、ホームページにも掲載。4月から開始し、徐々に利用も増えている。

【高齢者向け 出前おはなし会】

北図書館では、小部東福祉センターと連携し、高齢者向け出前おはなし会を実施。福祉センターでの月に一度のふれあい給食の日に、食後のレクリエーションとして行った。ボランティアグループによるギターの生伴奏もあり、大いに喜んでいただけた。高齢のため、普段は図書館を利用されない方にも利用案内をお渡しでき、図書館に興味を持っていただくよいきっかけとなった。4月21日、5月19日開催。

(企画情報係・西山)

ー手帳ー

人事

3. 31 退職

三木 真人 (館 長)

常信 幸男 (総務課長)

松永 憲明 (利用サービス課長)

中西 厚子 (利用サービス課市民サービス係)

転出

嶋岡 弘光 (利用サービス課調査相談係嘱託)

4. 1 人事異動

笹井 徹 (館 長)

三谷 忠弘 (総務課長)

鎌田 寛子 (総務課担当課長)

石田 有邦 (利用サービス課長)

棟安 陽子 (総務課担当係長)

榊井 里香 (利用サービス課担当係長)

松永 憲明 (総務課担当係長・再任用)

布川 沙紀 (新規採用)

吉田 綾音 (新規採用)

小嶋 沙也加 (新規採用)

芦田 宏 (利用サービス課調査相談係嘱託)

会議 3. 16 安全衛生委員会

5. 25 兵庫県図書館協会理事会

6. 1 兵庫県図書館協会総会

6. 20 文教こども委員会

研修 6. 16 館内研修

表彰 神戸市永年勤続表彰 (20年)

川口 則男 (利用サービス課市民サービス係)

松尾 宗一郎 (利用サービス課調査相談係)

行事 4. 17 こどもの読書週間講演会

その他 4. 5 玉津南公民館予約図書受取コーナーサービス開始

5. 31 兵庫・須磨図書館自動貸出機供用開始

6. 7 北図書館自動貸出機供用開始

6. 10 中央図書館自動貸出機供用開始

6. 14 北神・新長田図書館自動貸出機供用開始

6. 26・27 司書採用試験